

NEWS & TOPICS

新たな試み、イベント情報など新着トピックスを発信します！

第37期 経営会議を開催しました

経理部の野口です。3月19日(金)に経営会議にて山添社長より方針発表がありました。今回の経営計画の内容は、100年企業を見据えて策定しております。昨年より皆さまに色々な対策をして頂いているコロナ禍におかれ、日本のみならず、ベトナム、中国と皆さん一致団結して頂き、非常にすばらしい成績を取って頂きましたことに感謝申し上げます。

清浄・清潔・美化に係わるあらゆる商品をつくるビジネスモデルにおいて、

非常に忙しく、何が売上を牽引したのかを突き詰めると表面的にはアルコールジェルが売れた等が挙げられますが、もっと奥深いことを挙げると小ロット、多品種の多チャネルのことをやってきたことが結果に結びついたと言えます。

コスモビューティーの歴史において、大手の仕事を一社に依存しない、一つのマーケットだけで大きな売上を上げないということの意味を身に染みて感じた年はこれまでなかったと思います。

当社は、基礎化粧品の王道なものからボディケア、ヘアケア、化粧品のものでも衛生にかかわるものまで多チャネルのものをやっています。価格帯においても、超低価格のものから高価格のものまで、販売チャネルにおいても通販、店販、量販、ドラッグストアとマーケットも多岐にわたります。



その中で海外というジャンルで売り場も広くなり、多チャネルの影響力が大きかったと言えます。これから100年企業を見据えてやるべき事は、今のままの財務体制や皆さまの頑張りで100年企業になるのは確実であると思っています。

ただし、強い形での

100年企業を迎えたいと考えており、益々多チャネル化を推し進めていきたいと思っています。100年企業を目指す初めに組織固めをテーマにおいたのは、我々の会社は一人の人間が頑張っただけで熟してやってきています。「営業においてもこの人が仕事を取ってきた」、「研究もこの人のお陰で良い処方できた」。これは非常に素晴らしいことではありますが、それでは真の意味で100年企業にはなれないと思っています。



今年は100年企業を目指す第一の課題として、組織固め、属人的なものを組織力で解決していくコスモビューティーになっていきたいという思いを込めて計画を策定しております。

一 コロナ禍において素晴らしい成果を取って頂いた感謝

二 多チャネル化

三 組織固め

第37期経営会議資料はこちらに投稿されています。

社員の皆さんはぜひご覧ください。

J:\3_KEIJIB\KAIGI\37期\経営会議

(セントラルオフィス経理部:野口浩二)



大阪工場

生産管理部編

OSAKA FACTORY PRODUCTION CONTROL DEP.

生産管理部ってどんなところ？

生産管理部では、大阪工場・埼玉工場・ベトナム工場の生産計画立案、原料・資材の発注、発注品の納期管理、外注管理を主にを行っています。今回はその中から生産計画業務についてご紹介します。

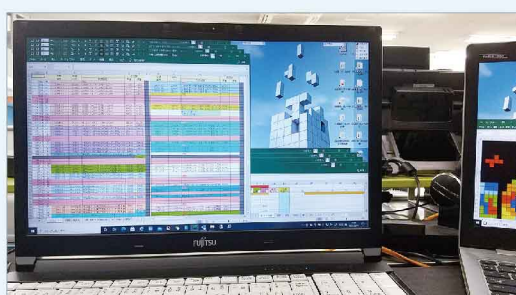
まずはいただいたご注文内容を営業事務が基幹システムに受注入力するところから始まります。受注入力を行うと品番・品名・数量・完成希望日・出荷予定日などの製造依頼データが生産管理部へ届きます。製造依頼を受けたら、いつ・どこで・どのタンク・どのラインで生産するかを検討します。製品納期に原料・資材のリードタイムを加味しておおまかな日程を定め、充填ラインの空き状況・作業人数面での稼働状況・製造タンクの空き状況を見て製造日・充填日を決定していきます。しかし予定を入れたところには既に他製品の予定が組まれていることが多いので、どちらを優先するのか、どう組み替えたなら効率が良いのかなど、資材納期・製品納期の許される範囲内で検討し、関係部署とも相談しながら調整を進めていきます。

こうした流れで無事に生産日程を確定させたら「ひと安心」と言いたいところですが、お客様より

前倒しのご依頼や海外資材の入港遅延などイベント多彩です。その度に製品納期最優先で生産効率も考えながら製造員・充填作業員の稼働率を出来る限り100%に近づける調整を生産完了まで何度でも繰り返します。生産完了で業務完了となります。

計画業務は工場の稼働率と比例して年々難易度が上がっています。特に昨年はコロナの影響でとても不安定だったので、いびつな形のブロック6個が結構なスピードで落ちてくるテトリスをしているような感覚でした。クリアした達成感よりもクリア出来た安心感？

ちょっと何言ってるかわかんないですね。



生産計画の画面はまるでテトリスみたいですね。(イメージ)

何はともあれ、今後も頼りになる生産管理部を目指して業務に精進したいと思います。

TOPICS

2021年1月に生産管理部がセントラルオフィスから大阪工場に移転しました。

2021年1月に生産管理部がセントラルオフィスから大阪工場に移転しました。部署別での事務所移転回数はトップだと思います。スタートが大阪工場では2013年に(旧)大阪第二支社へ、2014年に(旧)ユニバーサルオフィスへ、2017年に福島事務所へ、2019年にセントラルオフィスへ、そして2021年に大阪工場へ帰ってきました。

また、当初は2人で立ち上げた部署が今では8人となりました。事業拡大に合わせて場所も人も役割も変わります。今回工場にて業務をすることで製造部の不満や悩みを直接肌に触れ、モノづくり企業の生産中枢を担っている責任を改めて感じています。工場に寄り添い、隙間を埋めることでみんなの認識を横一列に並べて、不満や悩みを消していければいいですね。そう、テトリスのように。

(大阪工場 生産管理部:川野 泰久)